

登熟向上のための適正な水管理の実施について

大粒な「ふくまるSL」を安定的に生産するには、中干し終了後の適正な水管理が重要です。根の活力を維持し登熟の向上を図るために、**出穂後30日まで**間断かんがいを実施して下さい。

○ 間断かんがいの方法

- ① 出穂までは3～4日程度湛水（入水後自然落水）し、落水状態で1～2日程度保つサイクルを繰り返します。田面が多少乾いても問題ありません。
- ② 出穂期以降は、出穂前よりも綿密な水管理を必要とします。湛水の継続日数を2～3日とし、田面が乾く前に入水するサイクルを繰り返します（下図）。
- ③ 登熟期間に常時湛水や田面が完全に乾くほどの水分不足にすると、乳白米や胴割粒などが発生しやすくなるので注意して下さい。

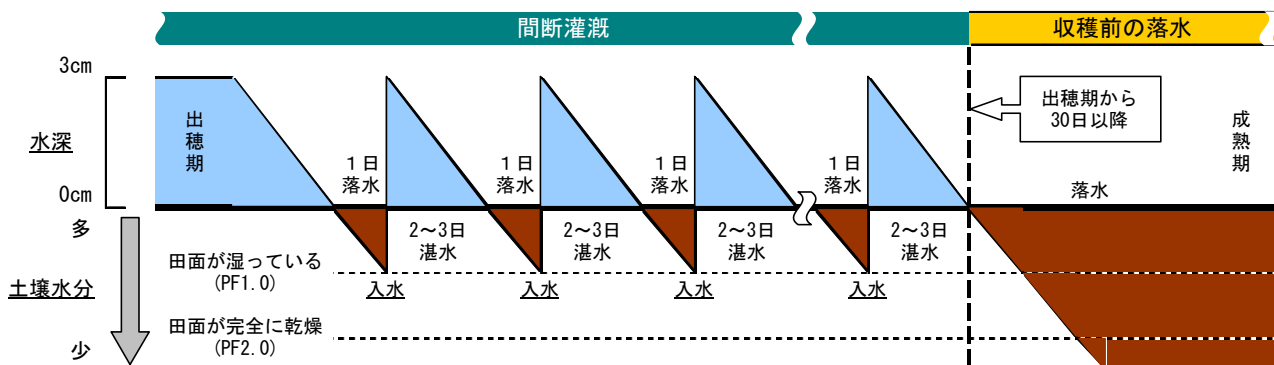


図 登熟期の間断かんがい法

【参考:今後の病害虫防除について】

(1) イネ紋枯病

近年、本県内の水稲圃場において、紋枯病の発生が多い傾向が認められます。本病は、前年の発病株から圃場に落ちた菌の塊（菌核）が翌年の伝染源となるため、毎年同じ圃場で発生しやすい傾向があります。そのため、昨年本病の発生が多かった圃場はよく観察し、発生が認められた場合には早期に防除を行いましょう。

(2) 斑点米カメムシ類

農道や畦畔等のイネ科雑草は生息場所となります。出穂期ごろの除草は、カメムシ類を圃場内に追い込むことになるため、出穂2週間前（7月上旬ごろ）までに行ってください。また薬剤防除について、成虫を対象とする防除は穂揃期、幼虫を対象とする防除は乳熟期（出穂10～15日後ごろ）に行いましょう。特に、斑点米の発生を抑えるためには、乳熟期の防除により幼虫密度を下げるのが大切です。